



2022年7月1日

第130号お知らせ版

NPO法人 響き合いネットワーク東京SPの会

NPO Resonate Network Tokyo SP

○6月1日9時30分から16時30分まで、10名のSPが相模原看護専門学校で医療面接を行いました。



医療面接が始まる前に担当の先生と打ち合わせ シナリオの確認 学生さんとの面接 グループによって医療面接の内容がこととなります。



ベッドから離れて手浴と足浴 気持ち良かったです。



おいしいお昼ごはん。朝が早かったので食欲全開



足浴を行う学生さん 終わって意見交換でSPはフィードバック



学生さんのグループが変わり SPへの足浴・体位変換・車いす移動等の作業に真剣に取り組む学生さん

相模原看護専門学校の模擬患者を演じて (2022.6.1)

(2 学 年 生 : 81 人 模 擬 患 者 : 10 人)

三上 操

症状等：脳梗塞（右片麻痺、右顔面神経麻痺、構音障害、手足の感覚障害）、入院7日目でリハビリ2日目の65歳の男性患者。学生の患者に対する援助は、車椅子への移乗、手浴・足浴などです。この援助を午前と午後、それぞれ10グループずつ、1グループ(4~5人)2回の援助です。

午前グループの1回目は、ベッドに座っての手浴・足浴でした。私は、左手に力を入れ身体が倒れないようベッドの柵につかまり、その後、シナリオどおり、少しずつ右に倒れるように演技したところ、学生は透かさず、私の後ろから、右にも後ろにも倒れないよう身体を支えてくれました。また、手浴・足浴では、患者の気持ちをリラックスさせるためラベンダーの入浴剤を用い、更に、保湿クリームまで施していただきました。2回目は、車椅子での手浴・足浴でした。車椅子への移乗がスムーズではなかったので「車椅子に移るのは、大変、疲れるなあ。」と車椅子への移乗の時と手浴・足浴の時にも何度かつぶやきました。午後のグループは、1回目も2回目も車椅子での手浴・足浴でした。1回目は、車椅子への移乗が不安定だったことから、振り返りで、障害の無い左足に体重を預けさせてからの方が楽だと話をしたところ、2回目は、この方法による移乗だったので、1回目より楽でした。しかし、振り返りでは、先生から患者の車椅子への移乗が未だ不安定であるとの指摘があり、患者の身体を安全に預かる場合の足の位置や患者の支え方の実演指導がありました。午前・午後の振り返りから、観察者からは、学生の動作、患者の表情や姿勢をよく見ている、「車椅子のストッパーがかかっていた。」「手浴と足浴が同時だと、患者から、足浴の学生を見ることが出来ないし、会話も出来ていなかった。」「手浴・足浴の湯加減に時間が掛かり過ぎた。」

「ベッドに寝ている患者に声をかける時、姿勢を低くして、患者の目線に合わせていた。」「手浴・足浴を終えた後、『眠たくなった。』という患者の言葉から、足の疲れが取れたと思いました。」など様々なところに目を向けられていました。学生は、実に細かく観察されているものだと感心させられました。この振り返りから、多くの気付きがあったことを知ることが出来ました。午後の学生全員が集まった「まとめ」で各グループ1分間の感想では、多くのグループから「コミュニケーション」の難しさを感じていたようでした。

グループの感想を終えた後、先生から神永理事長と私に挨拶の指名があり、予想外の私からは、『コミュニケーション』を楽に出来る内容としては、患者の『趣味』とか、『好きな食べ物』の話をされると良いですよ。皆さんも経験があると思いますが、『出身地』が一緒だと親しみを感じ、自然と会話が弾むようになりますね。皆さんの笑顔が素敵でした。』と挨拶をしました。

最後に、4回の手浴・足浴をしていただいたので、帰りの電車で手の甲を見たら、白くきれいになっていたの、つい微笑んでしまいました。手浴・足浴とその時のマッサージは、最高でした。1日4回も温泉に行ったような気持ちにさせていただき（役柄は、病人だけど・・・）、ありがとうございました。

「相模原看護学校(6月1日)」

小林滋男

7日目に脳梗塞により緊急入院。ろれつが回らず右半身に麻痺が残る65歳の患者役を演じました。まずは、ベッドから起き上がり車椅子への移動。右手と右足は一切使わないように心掛けました。最初の方は、親切にすべての動作を介助してくれました。でもそんなことしていれば腰を悪くしてしまうよとアドバイス。それを受けて次の方は、左手でここを掴んで次はここをと具体的に指示してくれる。でも何となく冷たく感じてしまいました。「リハビリになりますからできる限り左手や左足を使ってやってみましょうね」という前置きがなかったからです。自身の体の保全と残存機能の活用がポイントなのでしょうね。

次は、手足の清潔援助。お湯が少なかったチーム。少しぬるいかなと言ったら容器に足を入れたまま熱湯を注いだチーム。気になる点もいくつかありましたが、皆さん声かけをしながらとても丁寧にやってくれました。コロナ禍で対面教育や看護実習がままならなかったことを考慮すると、僅か1年3か月で良くここまで身に付けるなんて凄いと感じました。そしてコミュニケーション演習のために、「情けないな、こんなことも自分でできないなんて」「リハビリを頑張って早く家に帰らないと」という2つのつぶやきをするように先生から依頼を受けました。うまく反応できずにスルーしてしまった方。『そんなことないですよ』と明るくエールを送ってくれた方など様々でした。最初のチームが終わった時点で、話題に困った時は趣味の話やお孫さんの話をしたら良いですよと。後半のチームは山登りに花が咲き、時間が足りないくらいでした。やはり他の方の実習を観察し、繰り返し練習することの重要性を改めて再認識できた演習でした。

○6月2日関東学院大学へ2名のSP が参加しました。

壇上での発表は拒否され、学生さんの前で面接が行われました。



2つのグループが全員の前で面接しました。司会の先生から質問やアドバイスを受けてます



マイクを握っていたが学生さんからも感想が述べられました。グループの学生さんに意見を求めています但皆さん静かでした。

関東学院大学看護学部の演習に患者役として参加した感想（3日目）

神永 貞信

帰宅後の8日目の看護師からの指導を受ける患者役を演じました。帰宅前に受けた食事療法や運動療法それに自己インスリン注射などは気になっていたが大丈夫だったとの印象を持って8日目の看護指導を受けたのですが、やはり自宅に帰ったという安心感のためか、「気のゆるみ」が血糖値を上げてしまったとの指摘を受けたのですが、看護師役の学生から、「糖尿病の治癒はない血糖値のコントロールが生きるための条件だ」と言われ、低血糖の問題なども指導してくれました。はじめのうちは「たいした事はない」と思っていたところ、看護師役の学生から親身になって糖尿病の合併症の恐ろしさの話を聞いているうちに、その話に吸い込まれるように真剣に聞いている自分に気づかされました。やはり「真剣さ」と「親身さ」が患者をその気にさせるのでした。

○6月5日川崎市立多摩病院(聖マリアンナ医科大学)家研也先生と富府詩織先生(医療法人者団家族の森多摩ファミリークリニック)の名参加で、中野事務所にてSP 10名が臨床研究の目的等を伺いアンケートに参加しました。ここに参加したSPは日常5種類以上のお薬を飲んでいる65歳以上の会員です。常用薬5種類以上ある状態をポリファーマシーと呼ぶそうです。

臨床研究を受けて

近藤 久恵

今回の臨床研究はアメリカとの共同研究であり、アメリカで開発され日本語に翻訳されたアンケートとインタビューにこたえるものでした。ポリファーマシーと呼ばれる5種類以上の常用薬を服用している10名が参加しました。研究チームの聖マリアンナ医科大学の2名の医師から研究目的を説明され、全員がお薬手帳を提出し、チェックを受けた後、個人の名前は出さないという約束でアンケートに答え、インタビューについては録音もなされ個人の名前は出さないという約束でアンケートに答え、インタビューに答え、インタビューについても録音なされた。参加者からいろいろな意見や質問がでました。先生からは家庭医はどなたか？ 総合病院の医師、クリニック医師か。また、薬の把握はどなたがやっているのか？本人、総合病院の医師、クリニックの医師などなど。6種類以上の薬を服用している私にとって妥当か否か判断するには医師と薬剤師に相談する必要性を改めて、知ることができ、とても有意義な機会を得ることができことともに研究に役立てたことを実感しました。

○6月14日と15日東京医療保健大学で101名の3年生の学生さんと、SP10名でOSCEを行いました。



担当の先生から説明を受ける SP

バイタルを手際よく測定する学生

お加減いかがですかと優しい笑顔の学生



タカラズカもどきの男性役で血圧測定。一人暮らしの患者に語り掛ける学生

おなかの音を聞く学生

お薬の状態の説明する

感想

神永教子

6月14日は男性役で、一人暮らしの元小学校の調理師で料理はするが認知症気味で娘さんがサポートしてくださる役でした。学生はみな明るい声で「こんにちは」と挨拶をして、今日の体調やお薬の飲み忘れ等をチェックしていました。自分で組み立てたことを一生懸命に話す姿に、思わずがんばれと応援しました。ただ、患者から聞きとるといふには、まだ時間と回数が必要だと思いました。

6月15日は女性役でやはり一人暮らしで、胃がんの手術後2日目の患者です。煙草を20本/日、50年間で咳を出す役です。痛みも動く痛い訴えるのですがベットが硬くて本当に腰が痛くて、困りました。学生さんはみな一生懸命でバイタル測定もてきぱきとこなし、測定値も教えてくれたので安心して協力できました。

○6月21日に2年3ヶ月ぶりの月例研修会が開催されました。21名の参加です。今期は城川部長が会場を取ってくれます。森事務局部長からこれまでの事務局の活動報告がされました。

ご本人は初めてのことで上がってしまったとのことでしたが堂々としていました。



城川学術部長から開催経過の説明とプログラムの説明がありました。会計報告等を神永理事長が行いました。

○6月25日昭和大学の説明会が14時から昭和大学で行われました。



3つのシナリオを手に SP は27名集まりました。初めての症例にドキドキしながら聞いていましたがシナリオごとにクラスを作り説明会が行われました。シナリオが難しくなり、症例について、学生さんから聞かれなかった場合、まさに評価者と一体でどう表現するかと悩みました。意見もいろいろでしたが参加した SP が同じように行動することが基本で、これに従うということのようです。

お知らせ

- 宮竹さんが腰痛でお休みです。
- 近藤久恵さん元気になられました。7月の会計から活動開始です。
- 佐伯さん肋骨を骨折しましたが見事によくなり活動しています。
- いろいろな大学から機構での標準化模擬患者の認定を受けているかの質問が来ています。

機構で開催した講習会にはすべて参加していますが、許可書見たいものはいただけていません。交通費と参加費用は会で持ちますので是非チャレンジしてみてください。

6月30日締め切りのものには応募しました。これには理事7名に参加していただきます。

文責 神永教子